

第17回 鹿児島県原子力安全・避難計画等防災専門委員会



令和4年7月6日に第17回の専門委員会が開催されました。県や九州電力からの報告を受けて、委員からさまざまな意見や助言がありました。

川内原子力発電所の安全性の確認について(説明:九州電力)

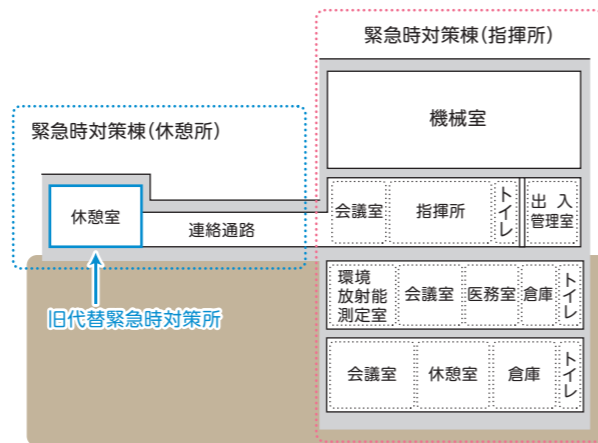
1 更なる安全性・信頼性向上等の取組

川内原子力発電所では現在、緊急時対策棟の指揮所と休憩所を連絡通路で接続する工事で外部電源の受電回線数を3回線から6回線に増強するなどの工事が行われているとの説明がありました。

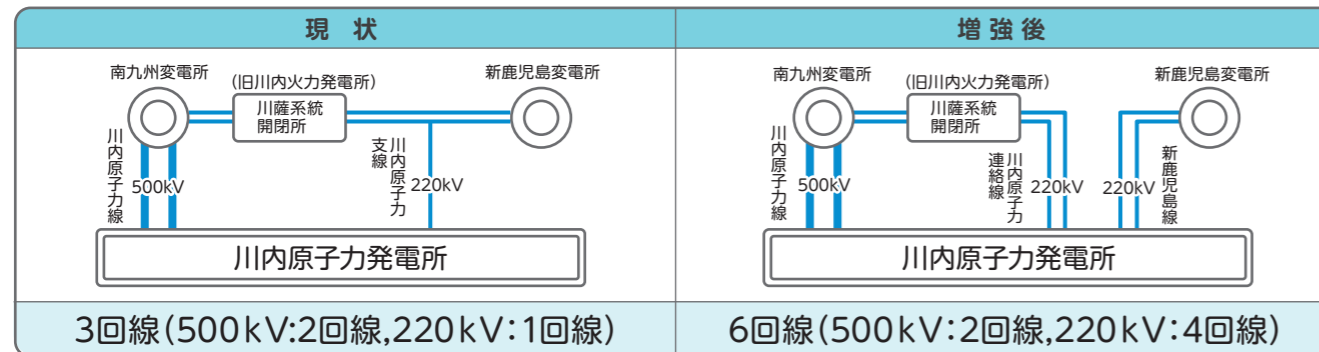
※緊急時対策所

事故時の指揮所は、これまで旧代替緊急時対策所にて運用していましたが、緊急時対策要員がより一層確実に重大事故等に対処できるよう、新たに緊急時対策棟(指揮所)を設置しました。また、旧代替緊急時対策所を休憩所として使用するため、連絡通路で接続して一体的に運用します。

緊急時対策所の完成イメージ



受電系統の変更のイメージ



主な質疑応答
Q 川内火力発電所は今年4月に廃止しているが、受電系統の状況はどうなっているのか。
A 受電系統については川薩系統開閉所として、現在も使用可能な状況となっている。

2 川内原子力発電所1号機の定期検査結果

1号機は第26回定期検査を実施し、設備に異常がないこと、「原子炉を止める」、「原子炉を冷やす」、「放射性物質を閉じ込める」の各機能が健全であること及び重大事故等の対応が可能であることを確認したとの説明がありました。

定期検査の期間

令和3年	10月17日	発電停止
	12月18日	原子炉起動
	12月19日	臨界
	12月20日	発電再開
令和4年	1月17日	通常運転復帰

委員コメント 定期検査中の放射線業務従事者について、特定の人に被ばくが集中しないようにお願いしたい。

原子力防災対策について

1 原子力災害時住民避難支援・円滑化システム(原子力防災アプリ)の概要等

システムでは原子力災害時に、防災業務関係者が必要とするさまざまな情報を自動で集約し、管理・共有することでより迅速な避難支援活動を行うことができます。また、住民のスマートフォンにダウンロードした「原子力防災アプリ」により避難に関する通知や避難経路等の情報提供等を行い、円滑な避難を支援します。



分類	内容
情報集約	他の防災システム等の情報を自動で収集して集約
	システムが集約した情報を分かりやすく地図上に表示 避難経路情報を防災関係者に対して迅速に提供(共有)
情報通知	原子力防災アプリを通じて住民に避難に関する情報を通知
情報管理	住民の避難状況の把握
	避難車両の配車状況の管理 避難所等の関連施設の基本情報や開設状況の管理

委員コメント アプリについては、QRコードを見てインストールする操作など極めてスムーズでよくできており、トップページで空間放射線量が分かるのは大変すばらしい試みである。

主な質疑応答

- Q** 利用者がアプリを災害時に活用できる仕組みはどうするのか。
- A** 住民説明会等で操作方法等をお伝えしていきたい。
- Q** アプリの多言語対応はどうなっているのか。
- A** アプリをダウンロードする端末の言語設定(英語・中国語・韓国語)に対応するようにしている。

原子力防災アプリの機能は7ページへ

2 原子力防災訓練の令和3年度実施結果、令和4年度計画概要

●令和3年度原子力防災訓練の結果

新型コロナウイルス等の感染症流行下を想定した上で、開発中であった原子力災害時住民避難支援・円滑化システム(原子力防災アプリ)の一部機能を活用した訓練等を実施しました。



【関係機関からの主な意見等】

- 原子力防災アプリについて、今回は住民役の職員のみでの操作であったが、要員への周知や研修等が今後必要ではないのか。
- アプリ利用の受付と従来の紙による受付が混在したため、今後の対応を検討していく必要がある。

●令和4年度原子力防災訓練の計画概要

システムを本格的に活用した住民防護対策を実施するほか、アプリを活用し、一時集合場所等での住民受付や安定ヨウ素剤配布の手続き、情報伝達等の訓練を行うことを検討しています。